

【 職業感染 / 結核 】

結核は今でも身近な病気です。

2023年の結核罹患率（人口10万対）は8.1であり、2021年に結核低まん延国の10.0以下に達し、現在も継続している。年齢別新登録結核患者数では70歳以上が半数以上を占め、高齢者が多い傾向ではあるが、15歳以上から39歳以下までの年齢層で増加がみられる。特に20～29歳では外国出生結核患者の増加により、前年より265人（34.1%）の増加となっている。

どんな病気？

患者が咳やくしゃみなどをした時に出るしぶきと一緒に結核菌が空気中に飛び散り、それを吸い込むことで感染します。

（空気感染）

発病するのは感染者のうちの2割程度ですが、多くの方は免疫の働きによって発病しません。しかし、加齢や病気などで免疫力が落ちると結核菌が再び活動を始め、発病しやすくなります。肺以外の臓器が冒されることもあります。

発病してしまった人をできるだけ早く発見して治療を開始することが大切です。

結核菌に感染

約8～9割

ほとんど発病しない

約1～2割

初感染発病型：
未感染の若い世代

既感染発病型：
何年もして加齢や
基礎疾患あり

免疫力の低下

Step 1

結核を疑う症状は？

- ・ 2週間以上続く咳や痰
- ・ 微熱・寝汗・倦怠感・体重減少等

重要なのは早期発見！！

Step 2 診断

1. 臨床症状
2. 画像診断（空洞形成、結節影など）
3. 喀痰検査
（塗抹検査・核酸増幅法検査・培養検査）
塗抹検査 陰性→3回連続検査して判断
陽性→感染性がある
4. インターフェロンγ遊離試験
（IGRA：QFT・T-spot）

喀痰からの検出は他者への感染性が高い
細胞や組織からの検出は感染性が低い

Step 3 感染対策

空気感染対策（陰圧室）

※やむを得ず等圧室の場合は2ヶ所空気の流れを作る。

【医療従事者】 N95マスク

【患者】 サージカルマスク

Step 4

接触者検診の流れ

1. 保健所に発生届をする（直ちに）
- 感染症法第12条 -
2. 保健所と対応協議
職員、他の患者への感染の可能性および院内の感染源について検討する。
3. 保健所が接触者健診の優先順位を決定する。
4. 接触者のリスト作成
○接触者＝同じ空間に居た者
○接触の程度、時間。医療従事者は行なった処置とその際のマスク状況。
5. 保健所の指示の下健診をおこなう
（IGRA検査、胸部画像検査など）